

怪談の科学

幻覚の心理を探る

中村希明 著 講談社 1979年

「幽霊」とは客観的には存在しないのに当事者だけにはありありと実在するように知覚される現象であり、これは精神医学的には幻覚であると著者は言う。古今東西有名な怪談話や体験談は、精神医学の立場からは説明可能な現象であることを明らかにしながら精神科医の考え方を記した一冊。

怪書探訪

古書山たかし著 東洋経済 2016年

古本好きの著者が、これまで集書した本の中から面白本、ヘンテコ本や収集する際の苦労話などを紹介する。現在の新田次郎とはイメージが程遠いUFOを扱った作品「夜光雲」の話や、カバーに笑いとパースの中に深い人間愛をうたい上げた感動の書と書かれていた「ちびっこブーニャ」という本の中に、アイドルのビキニ写真付き新聞広告の切り抜きが挟まっていた話など、随所に面白エピソードが盛り込まれている。

日本怪僧奇僧事典

祖田浩一 著 東京堂出版 1996年

怪僧・奇僧と呼ぶのは、常人の行動を越えていたり逸脱していて、常人が並の努力をしても遥かに及ばない何かをなし得た僧たちのことである。行動においては怪物性、奇人性を見せた僧侶たちも愛すべき一面をもっていた。本書ではそうした僧侶45人を紹介する。

妖怪と絵馬と七福神

岩井宏實 著 青春出版社 2004年

人々は政治、経済、社会が低迷し、生活が苦しくなると、心の安らぎを求め現世とはかけ離れたなにかによって困難を切り抜けて来た。そうした時に迎えられるのが妖怪と絵馬と福神であると著者はいう。現代社会と過去の低迷期を照らし合わせ、「妖怪の軌跡」「絵馬の系譜」「七福神の来歴」を記す。

怪のはなし

加門七海 著 集英社 2008年

フィクションからノンフィクションまで、書く素材がすべて「神」「鬼」「霊」「物怪」について語る著者の実話怪談話。

